

知っていますか？

日本語では「～前」「～後」という言い方がよく使われます。たとえば「食事の前に手を洗う」

「仕事の後で飲みに行く」など、時間の流れを表す言い方です。

では「9時10分前に来てください」と言われたら、何時に行けばよいのでしょうか？

答えは 8時50分です。「9時から10分引いた時間」という意味になります。

一方、「9時前に来てください」という表現は、9時より少し前、つまり 8時50～59分

ごろを指すことが多く、少し余裕を持って来てほしいときに使われます。

さらに、「前」は時間だけでなく、「店の前に猫がいる」のように、位置を表す場合にも使われます。

このような表現は、日本語を学ぶ外国人にとって混乱しやすいため、例文をたくさん紹介したり、時間軸や位置関係を図で示したりするなど丁寧に伝える工夫が必要です。

ちなみに、日本人でも「8時50分」ではなく「9時10分より少し前」と答える人もするという調査結果があります。約束の時間を伝えるときは、はっきりした時間を示すほうが安心ですね。



Report

「霧が丘でのガイダンス 生活のルール」

「外国人にもわかりやすい
看板を考えてみよう」

広域避難所である玄海公園
は最近外国人の利用も増えて
います。6月14日の当日は
参加者全員で公園の看板を見
て回り、「外国人に分かるか
な？」という看板を探し、クイ
ズも取り入れ「やさしい日本
語」を楽しく学びました。

ラウンジでは、霧が丘地区を主とした地域における生活習慣の
違いによる、地域内外国人と日本人住民間の相互理解につなが
る取り組みを実施しています。
6月には霧が丘ケアプラザで多くのインド人の参加を得て、住み
方のルール、大きなごみの捨て方、災害対応や自治会での経験談
について活発な意見交換会を実施、7月には同じ会場で防災の
プロを招き、防災講座やインド防災食の試食をしました。
きたる11月30日(日)は、生活ガイダンスや外国人に必要な
防災講座、備蓄材を使用した防災食の試食などを行う予定で
す。少しでも多くの方々に参加してもらえたら嬉しいです。



発行:みどり国際交流ラウンジ

横浜市緑区中山1丁目6-15 パームビュービル5階

TEL: 045-532-3548

FAX: 045-532-3549

Mail: info@midori-lounge.com

開館時間: 9:30~18:00

(水曜日 9:30~21:00)

休館日: 日曜日、祝日

年末年始(12月29日~1月3日)

お友だち
募集して
ま〜す



ラウンジ公式LINE
イベントの情報など
お知らせします



みどり国際交流ラウンジは、横浜市緑区の委託を受けて NPO法人みどり多文化共創の会が運営しています。



外国が。

2025年
11月発行

vol. 15

みどり国際交流ラウンジ news

リレートーク

色んな国の人々が 緑区で 暮らしに馴染めるようなイベントや講座をお知らせします！

ウクライナの悲劇だけでなく

豊かな文化や伝統も知ってほしい！



2022年2月24日に始まったウクライナ侵攻。同年3月にムリヤフカさんは
2人の娘さんと日本へ逃れてきました。祖国を離れて3年経った今の想いを
伺いました。

ムリヤフカさんは当時6歳と2歳の娘さんを連れ、大叔母の住む日本へやってきました。「ヨーロッパに親戚がいないので、大叔母のいる日本を選びました」。慣れない外国で、幼いお子さんたちと3人で暮らすことに不安しなかったそうです。「ウクライナにいる家族や友人を心配する気持ちと、私たちの将来はどうなるのかという不安がありました。日本で暮らし始めた最初のころは、いつもショック状態だったんですよ。娘さんたちが学校や幼稚園に通うようになり、少しずつ日本の生活に慣れていきました。子どもたちが学び、成長できる安全な環境や支え、そして機会を与えてくださったことに心から感謝しています」。

ムリヤフカさんが今、困っているのは言葉。「日本語が話せないと、地域社会に完全には溶け込めません。家族や夫はウクライナにいたので、子どもの学校のことや家事、育児のすべてが私ひとりにかかっています。絶えず孤独を感じていて、心も体も疲れていることがよくあります」。そんなムリヤフカさんが、やってみただけがテニスだそう。「一度もプレイしたことはありませんが、前から興味がありました。体を動かせば、心の健康にもストレス解消にもなると思います」。

ムリヤフカさんには日本で暮らす私たちに知ってほしいことがあります。「ウクライナの人たちは幸福、安全そして平和を夢見ています。『自由』のために戦っている私たちを通して、『自由』という言葉がどれほど大切かを感じてください。そして、ウクライナは豊かな文化と伝統を持つ国であることをみなさんに知っていただきたいです」。



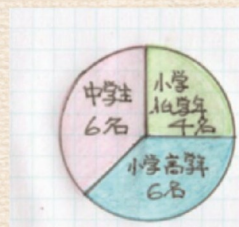
にほんごきょうしつ みどりく 日本語教室@緑区におじゃまし～す！

べんきょう たいせつ いばしょ とうよう
勉強ときどきゲーム!? 子どもたちの大切な居場所 ～ぱらりす(土曜)～

ぱらりすは ラテン語で北極星のこと。
「迷ったときの道しるべになる場所をつ
くりたい、という想いから名付けました。
ここでは学校の宿題や受験勉強の手伝
いをしています。子どもたちは世界の宝
です。できる限り支援を続けたいと思っ
ています」。



だいひょう じんぐう じ とおる
代表 神宮司 徹さん



きょうだいで通う子どもたちも！

生徒の中には高校受験
を控えた中学生も。日
本とは勉強方法が違う
ので、習慣に慣れるの
も大変なのとか。

「勉強を教えなくちゃ」と構
えないで、もっと気楽に近所
のおじさん・おばさんのよう
な感覚で大丈夫です。子ど
もたちの「分かった」が増え
ると、やりがいを感じます。



しょうがく ねんせい
ゆきさん 小学4年生

お父さまが日本人で
お母さまがフィリピン人。
ただ今ひらがなを勉強中。



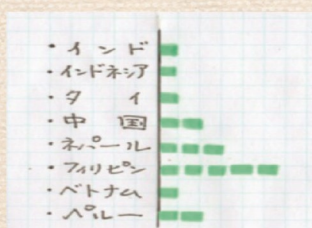
しょうがく ねんせい
そらさん 小学1年生



ふくだいひょう ねもと えみ こ
副代表 根本恵三子さん

ペルーから来たゆきさんは、ぱらりす100回も通っている
勉強熱心な女の子。妹のそらさんは、おしゃべりが大好き。

ちゅうしん こく らいにち
アジアを中心に8か国から来日！



しょうがっこう ていがくねん じ こうがくねん い じょう
小学校の低学年は13時～、高学年以上は
14時半～の二部制。現在16名の子ども
たちが学んでいます。



ば がっこうつうやく がつ にち
センセイとのしゃべり場「学校通訳のコツ」7月9日17:00-19:30

すぎやまあきらせんせい もととくべつし えんきょういくそうごう し どうしゅ じ なかむらじゆんこせんせい こくさいきょうしつたんとうきょうゆ まね がっこうつうやく
杉山 明先生(元特別支援教育総合センター指導主事)と中村淳子先生(国際教室担当教諭)をお招きし、学校通訳の
コツについてお話を伺いました。
集団教育が苦手な子どもに対する支援が多様化するにしたがって、支援を受ける子どもの数が急増しています。
一昔前の「特殊学級」とは異なり、知的障害を持っていない子どもも「特別支援級」に所属して勉強をしていますが、
我が子に特別な支援が必要だと知らされた保護者はやはり複雑な気持ちになります。先生はこの場面で間に入る通訳
に「慎重な通訳」を希望しています。

日本特有の支援の仕組みなので、ピッタリ合う語彙が見つからなかったり、難しすぎる専門用語が親の理解につながら
なかったりして、誤訳を招きやすい場面でもあります。誤訳が保護者の気持ちに更に複雑にしまい、誤解を生み、
先生と親の信頼関係が損なわれることになったら大変です。この場面で誤解を生まない通訳を行うために、通訳が支
援の仕組みを理解していることが求められます。

「子どもに合った特別な支援は子どものより明るい将来につながる事が多く、親はこのことを理解すると安心するこ
とが多いです。」と杉山先生は仰っています。学校通訳は学校と外国につながる親との協力体制を支える大切な役割
を担っているのですね。



がいこく こ がくしゅう し えん ようせいこう ざ
「外国につながる子どもの学習支援ボランティア養成講座」

8月30日(土)13:30～15:30、定員16名のところ19名の受講者を受け入れて
「外国につながる子どもを学校と地域がともに支える支援」をテーマに、横浜市日本
語アドバイザーの小山那実先生を迎え実施しました。外国につながる子どもの疑似体
験を通して、ことばが通じない状況の中で子どもが感じる不安や孤立、そして支援
の必要性を深く実感することができました。

「支援とは学習面だけにとどまらず、子どもが安心して過ごせる環境づくりや、心
の居場所をつくることも大切。そして、子どもは、自分たちに関わってくれる大人が
大好きです」とのお話があり、支援のあり方を改めて考える機会となりました。
11月29日(土)10:00-12:00には、第2弾として～楽しく学ぶための工夫～を開
催。(講師:川崎市日本語講師・横田悦子先生)広報よこはま11月号でご案内いたし
ます。



ぶんべつ
「ごみの分別 めんどうくさいけど よいしくみ」

た ぶん が きょうせい せいかつしゅうかんへん
『多文化共生かるた<生活習慣編>』より



来日した外国人が戸惑うルールのひとつに「ごみの分別」
があります。日本以上に厳しい分別ルールを持つ国もありますが、
そうでない国から来た人にとっては、最初は「めんどうくさい」と
感じることも。このかるたの文言は、日本語教室に通うインド・
フィリピン・ペルー出身の方々が考えました。

彼らは来日当初、分別に苦労したものの、慣れてくると「これは良いしくみだ」と感じ
るようになったそうです。今では、ごみ箱が見つからないときは持ち帰ることも、自然
にできるようになったとか。ちなみに、日本の資源ごみの分別収集は1970年代
後半、静岡県沼津市で始まりました。その後、全国の自治体に広まりましたが、分別ル
ールは自治体ごとに異なります。外国人だけでなく、日本人も引越しの際には
「ごみ出しルールの確認」が大切ですね。

※『多文化共生かるた』は、ラウンジ HP(ラウンジについて)からダウンロードできます。

